

◆『おくのほそ道』へ続く
芭蕉の旅

令和四年、ながらく所在が不明であった松尾芭蕉（一六四四～九四）自筆・自画『野ざらし紀行』の絵巻物が、京都の美術館にて再発見・公開され、世間の話題となりました。

『野ざらし紀行』は、芭蕉が初めて記した紀行文です。今回紹介する天理図書館所蔵本は、旅を終えて間もなく記した初稿本と言われ、絵巻物が再発見されるまで唯一の自筆本でした。

旅は、貞享元年（一六八四）八月、門人をともない江戸を出発したところから始まります。最初に東海道を經由して伊勢神宮を参拝、

次に故郷伊賀上野では、前年亡くなった母親の墓参をし、ひとときを過ごしました。その後畿内および東海各地を訪れ、甲州経由で江戸の芭蕉庵に帰ったのは翌二年の四月でした。初の紀行文は、芭蕉の作風に方向性を与え、その四年後、代表作『おくのほそ道』の旅へと続いていきます。

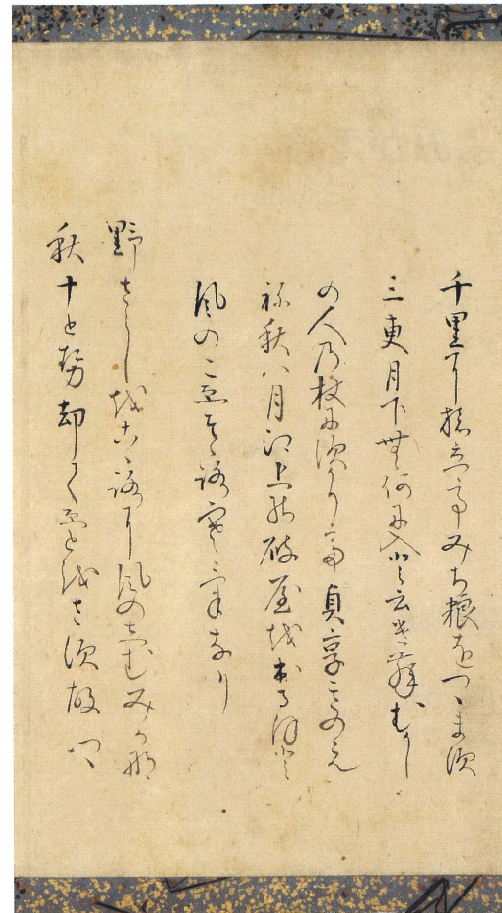
芭蕉は旅中、大和国を訪れ、名所や旧蹟を巡っています。最初に中将姫伝説で有名な当麻寺を参詣しました。次に吉野では尊敬する歌人・西行が住んでいたとされる庵の跡や、京都から逃れ、この地で亡くなった後醍醐天皇の御陵を訪れています。さらに観光都市・

奈良町では、春の訪れを告げる行事である東大寺二月堂のお水取りを見学し、「水とりや氷の僧の杓のおと」という句を詠んでいます。

本書には、推敲や訂正の跡はなく、丁寧な筆遣いで記され、豪華な装訂の巻物に仕立てられています。これは、芭蕉の有力な支援者かつ弟子でもあった、杉山杉風への贈り物として制作されたためと考えられます。杉風が所蔵していた芭蕉に関する資料は、杉山家の屋号から「鯉屋物」と呼ばれ、伝来の確かな資料として尊ばれ、その多くを本館が所蔵しています。

（天理図書館 佐上圭太）

野ざらし紀行



▶【のざらしきこう】

松尾芭蕉自筆 1軸
貞享2（1685）年頃
縦21.3cm 横438.Ccm



<天理図書館のお知らせ>

Tel 0743-63-9200 URL <https://www.tcl.gr.jp/>
◇平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
○12月の休館日：3日・10日・17日・22日・24日／年末年始12月27日～1月6日
（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）
※最新の情報については公式HP、X（旧 Twitter）でご確認ください。